

1. コラム「論点提起」：「個」「組織」の矜持や如何

昨今、再エネ汚職事案、日大アメフト部事案、ビッグモーター事案、ジャニーズ事務所事案、その他にも諸々、「個」と「組織」並びに「組織」と「組織」の関係性、「コンプライアンス」「ガバナンス」「リスクマネジメント」等々について、考えさせられる事案が頻発している。

参考：再エネ疑獄の本質 「政府の失敗」回避を 産経新聞社 月刊「正論」2023年11月号（2023年9月29日発売）掲載 https://cigs.canon/article/20231027_7720.html
コンプライアンス専門家が読み解く、ジャニーズ事務所の「失敗の本質」 2023年09月15日19時54分 Newsweek <https://www.newsweekjapan.jp/kitajima/2023/09/post-28.php>
日本大学への国の補助金 異例の3年連続全額不交付決定 2023年10月23日22時06分 NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231023/k10014234671000.html>

社会的規範＞法制度＞組織内規定等の遵守という「個」「組織」それぞれに要求される社会との関係性を意識したコンプライアンス、そして「組織」「社会」としての意思決定・管理運営の健全性・レジリエンスの確保のためのガバナンス、そしてそれらのリスクマネジメントが不可欠である。しかし、特に、バブルが崩壊した1990年以降の成長が止まった日本社会（失われた30年）において、リスクマネジメントが欠落し、ガバナンス不全が起これ、組織の不健全化・不活性化・低迷・崩壊を励起し、それを無理やり阻止せんがためのコンプライアンス違反が続発している。「忖度」し、事実を適時的確に報じない「マスメディア」の劣化がそれを加速させている。結果して、その流れを誰もとめられないまま、ゆでガエル状態で日本の衰退を招来している。

その理由の一つとして、「個」「組織」それぞれにおける「矜持」のなさがあるのではなかろうか。こうした思いの時、「映像の世紀バタフライエフェクト零戦 その後の敗者の戦い」（NHK 1/23放送、10/25再放送、NHK+配信期限：11/2（木）午前0:34 まで https://plus.nhk.jp/watch/st/g1_2023102516577）の再放送を観て、改めて、「個」（零戦開発技術者）としての矜持、「組織」（日本海軍）としての矜持のなさ（怠慢）を見せつけられた。堀越二郎が最後に関わった戦後日本の唯一の国産旅客機「YS11」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/YS-11> は自宅近くにある所沢航空記念公園に実機が野外展示 https://www.go2park.net/photo/kokukinen_ys11.html されており、身近に感じる。

世界のデジタル社会化における「敗者」 <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00148/041500169/> になった日本の今後の戦いに向けて、「個」「組織」としての「矜持」をいかにして持ち続け、「個」を尊重して柔軟に「組織」化できるかが問われていることに思いが至る。番組の中で、堀越二郎（1982年没）が「解明されている分野と、未知の分野との境界線を歩いている技術にこそ進歩があるわけで、絶えず失敗を恐れているのではなく、勇気と挑戦こそが必要でしょうね。」と語る言葉が腑に落ちる。「絶えず失敗を恐れている」ことは真のリスクマネジメントをしていないことの裏返しであり、いまもって続いている。矜持を持ってリスクテイクし、それが失敗しても許容し、更に次に繋げていくことが普通になる社会づくり、人づくりが今こそ問われている。

コロナ禍、ウクライナ侵攻、イスラエル・ハマス衝突、デジタル技術の更なる進化等々、世界が大きく変容しようとしている今、日本の「個」「組織」が「矜持」を持ち「自律」できるか如何。